

2 令和5年度牧野小努力点推進計画

(1) 主題 主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成
—「個別最適な学び」を意識した授業改善を通して—

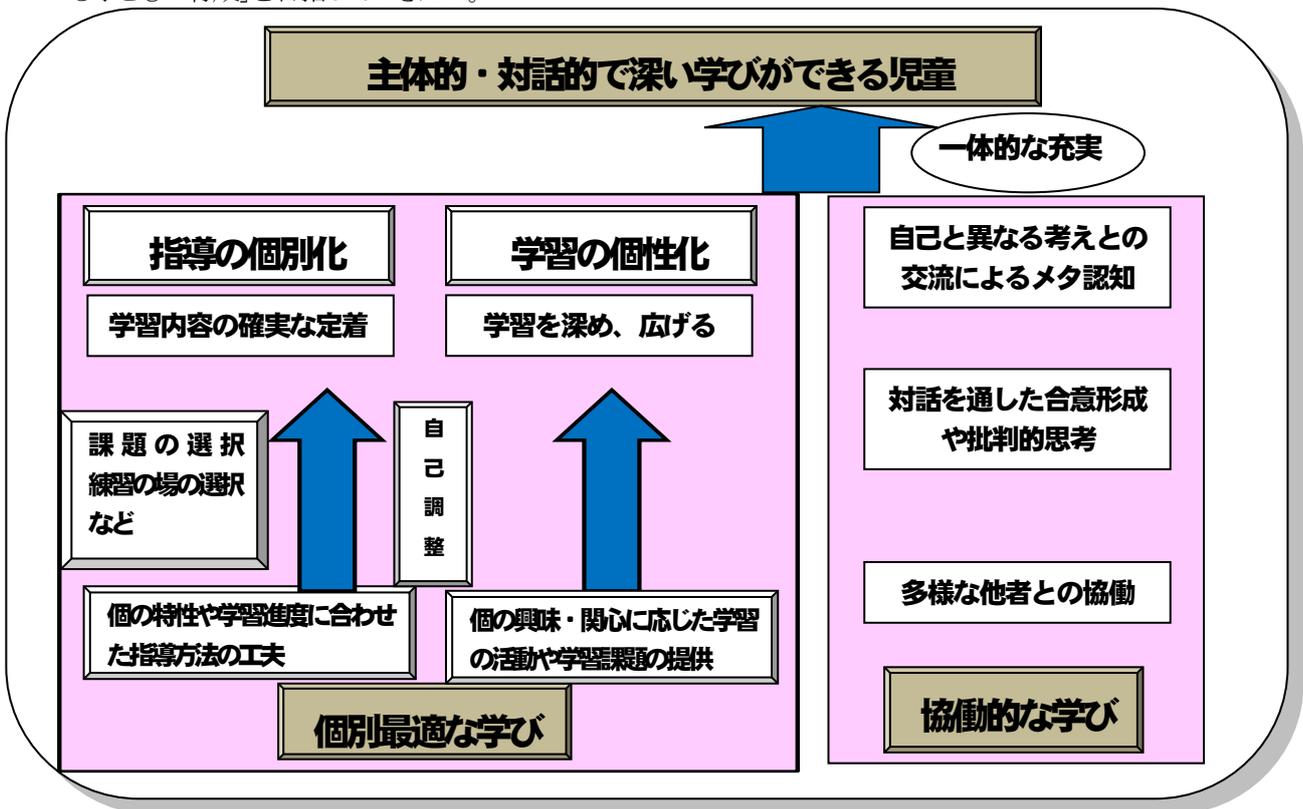
(2) 主題について

現在の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、子どもが「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」という視点での授業改善が求められている。これを踏まえて本市の努力目標として、ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が明記されている。

本校もこれまで「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成」という主題のもと、「課題意識をもたせるための授業改善」や「メタ認知を意識した授業改善」、「タブレットを活用した対話活動を通して」を副題として研究を進めてきた。子どもたちに課題を自分事として捉えさせるために、導入の工夫を行ったり、他者との考えの交流を通して、メタ認知を意識させたりする実践を重ねたことで、ある程度深い学びに導くことができた。

しかし、これまでの実践では、同じ課題に対して、同じようなアプローチで進める授業が多かった点が課題として残った。また本校は、通常学級に加え、知的・情緒・肢体と特別支援学級が3学級と通級指導教室も2学級あり、子どもの特性も多様であることから、もっと一人一人の興味・関心や能力に応じた「個別最適な学び」を意識した授業改善が必要であると感じた。

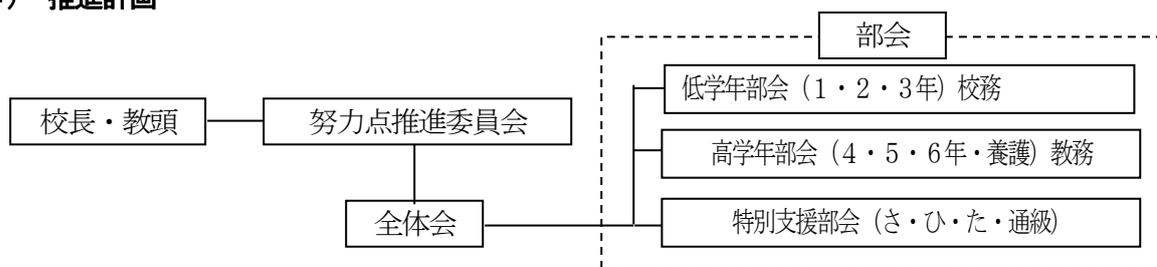
そこで、「指導の個別化」と「学習の個性化」を意識した「個別最適な学び」を中心に授業改善を行うこと、さらには、多様な他者との「協働的な学び」との一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成」を目指していきたい。



(3) 重点目標とその進め方

主題に迫るためには、個別最適な学びを意識した授業を行っていく。そのためにはまず、教師側が、一定の目標に向かって各々の特性や学習進度に合わせて指導方法を工夫する。そして子どもに自己調整を図る時間や場を設定することで学習内容の確実な定着を目指す「指導の個別化」を進めていく。同時に子どもの興味・関心に応じた学習の活動や学習課題の提供をすることで、子ども自身が学習を深め、広げていけるように「学習の個性化」を進めていく。これらを意識した研究を進めることで、「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成」を目指していく。

(4) 推進計画



- ・ 努力点全体会では、共通理解すべき授業実践の進め方の確認や意見交換などを行う。
 - ・ 部会では、低・高学年部会の2つに分かれ、授業実践（一人一実践）の事前検討会（P）→授業研究（D）→事後検討会（C）の事後評価を行い、授業改善（A）へとつなげていく。
 - ・ 全体授業は、低・高学年部会合同で事前検討、参観、事後検討を行い、全員で授業を考える。
 - ・ 参観は、部会内で行うが、部会外でも参観しやすいように、「検証する学習過程」を伝える。
 - ・ 事後検討会に向け、部会ごとに役割分担をし、検証しやすいように資料を用意しておく。
- (例) ①発問・手だて ②子どもの変容（抽出子ども） ③記録写真 ④計時

年間計画

	会議名	実施日	内容
1 学期	推進委員会	4/7 (木)	・年間推進計画提案
	全体会①	4/13 (木)	・年間推進計画全体提案
	努力点部会①	4/17 (月)	・育てたい子ども像・授業実践の計画
	授業研究 前期	随時 (5~7月)	・全体授業①の事前・事後検討を行う。 ・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。
2 学期	努力点部会②	9/1 (金)	・進捗状況の報告・意見交流
	授業研究 後期	随時 (9~12月)	・全体授業②の事前・事後検討を行う。 ・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。
	全体会②	10/12 (月)	・口頭による中間報告 ・まとめについて
3 学期	努力点部会③	1/11 (木)	・研究集録原稿の検討
	全体会③	1/22 (月)	・最終報告
	推進委員会	2/5 (月)	・次年度の計画

※ 取り組みを保護者や地域に知らせるため、保護者の授業参観においては、努力点に関する授業を行う。また、授業実践の内容やその成果については、学年だよりや学級懇談会でも報告する。